御井

久 留 米 大 学
御 井 図 書 館 ニュース
No.113　2023 年 9 月 1 日発行

# オンライン読書会

学生部長　　神原和宏

コロナ禍で自粛生活を強いられていた 2 年ほど前に、知人からオンラインの読書会に誘われました。コロナの流行は私たちの生活に様々な変化をもたらしましたが、その中の一つがオンラインの活用でしょう。私自身も、コロナ禍になって初めてパソコン用のマイクとカメラを買って、オンラインのゼミを実施したり、学内学外の会議、各種の研究会などに参加したりしてきました。従って、読書会の誘いを受けた時も、比較的すんなりと快諾できました。

読書会は、メンバーの予定を調整して、月１回土曜日か日曜日の夕方から実施しています。今のところ２０回ほどやりました。メンバーが順番でテキストの１パラグラフを朗読して、その後でみんなでその内容についていろいろ議論をするという形式です。

読んでいる本はカントの『判断力批判』です。読書会の話が先で、参加すると返事をした後で、本の提案がありました。私としてはどんな本でも良かったのですが、まだ読んだことがなかった本だったので、喜んで賛成しました。いざ読み始めてみると、予想以上に難解でした。こうしたときは、やはり注釈本のお世話にならないといけないですが、本学の図書館に 30 年ほど前に出版され、いまは古本でした手に入らない高峯一愚『カント判断力批判注釈』（論創社）があったのはありがたかったです。その他、美学関係の本を含めて関連の著作を図書館から借りたり、自分で買ったりして、仕事の合間のすきま時間で読んでいます。お蔭で、自分の専門とは直接には関係しない本に触れることができて、読書の幅が広がったと感じています。それと同時に、古典の解説書・研究書は、原典そのものを読まないと理解できないという当然の事実を再確認できました。20 回ほどやって、まだ全体の３分の１しか読んでいないので、読み終わるのにあと数年かかるとは思います。趣味の読書会で、読み終えるのが目的ではないので、のんびりとやっていきたいです。

コロナ禍以降、オンライン読書会というのはいろんなところでやられているようです。やってみたらほんとに便利なシステムだと思います。自宅や研究室にいながら、遠距離の人たちと一つの本について語りあうというは心豊かになる経験だと思います。読書会自体の意義については、私も以前この巻頭言に書いたことがありますが、それがデジタル化されて、さらに便利になり、ハードルが下がったということです。特に学生の皆さんは、在学中にそうした読書仲間を作ったら、卒業後、遠くに離れてもつながっていれるので、ぜひお勧めしたいと思います。

# 「普通」とは

文学部国際文化学科３年　古川麻衣子

日頃から私には活字の本を読むという習慣がなく、今まで読んだ本の九割が漫画本だった。そんな私でも何冊かは読んだことがあるので、今まで読んだ本について思い返していると、中学二年生の時に途中まで読んで返却した本を思い出した。それは村田沙耶香さんの『コンビニ人間』（2016）である。読もうと思ったきっかけは当時、この本が第 155 回芥川賞を受賞したというニュースを見たからだと思う。また、中学二年生の夏に職場体験をさせて頂いたのがコンビニだったからかもしれない。このことを思い出して、改めてこの本を読んでみることにした。

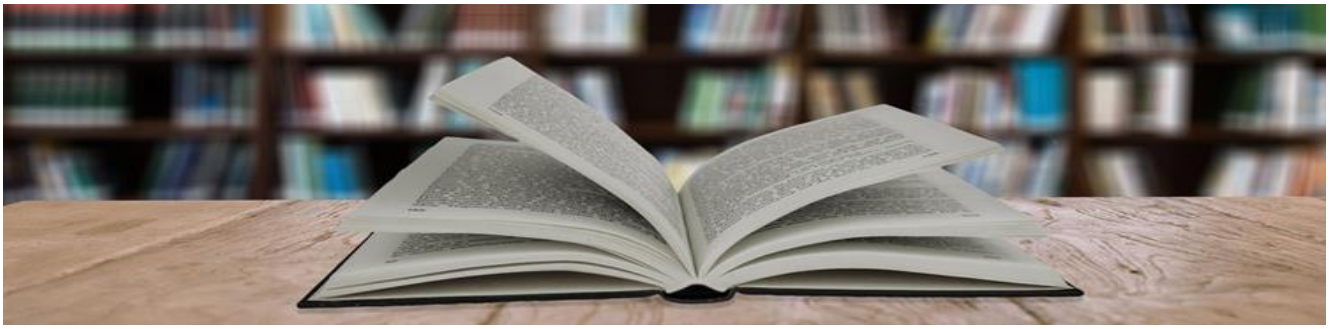
この本は、正規の就職をせずに大学卒業後もコンビニで 18 年働き続けている主人公「古倉恵子」の話である。古倉は子供の頃から変わっていると言われ、他人の真似や妹の助言を聞き、「普通の人間」として振舞っていた。コンビニでしか生きることが出来ない彼女を通して、「普通の人間」とは何か考えさせられる作品である。

私は職場体験でお世話になったコンビニでアルバイトをしている。コンビニは高校生から働くことが出来るためか、「誰でも出来る簡単な仕事」と思われている。実際は様々な作業を行いながら接客をし、マニュアルには無いことまで行うため、今でもコンビニで働くことは容易ではないと実感している。

以前、常連のお客さんに「将来良い会社で働かないと、年寄りになってもコンビニで働くことになるよ」と言われた。この一言でコンビニで働くことは「普通」ではない、社会で「普通」に働くことが出来ない人が働く場所だと言われた気がしてショックだった。

また、最近テレビで「紙媒体の本について、身体に障がいを持っている人間からすると、読んだり、管理したりすることが難しい」という作家さんの話を聞いた。さらに「読者バリアフリー法」という障がいの有無にかかわらず、全ての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられるようにするための法律があることを知った。私たちが紙の本を手に取って読んだり、本屋さんに買いに行ったりすることが当たり前ではない、「普通」ではないと、この話を聞くまで気づくことが出来なかった。

世の中、当たり前のことだと思ってしまうことが多い気がする。人によって得意・不得意、出来る・出来ないがあって、その不得意・出来ないことが得意・出来る人によって、「普通」になって世の中が回っているのだと思った。私は少しでも他の人が出来ないことが出来るように支えていきたいと思った。本を読むことで今まで気付くことが出来なかったことに気付くことができ、また新しい考えや想いを知ることが出来たため、紙や電子、音声など、どのような媒体でも構わないので、本を一冊読んで欲しい。



## 2023 年度 第 1 回『選書ツアー』を実施しました！

御井図書館では毎年、学部生を対象に選書ツアーを実施しています。
自分が読みたい本・図書館に備え付けて欲しい本を店頭で実際に手に取って選ぶことができます。

今回は、6 月 17 日（土）にジュンク堂書店福岡店にて行い、1 人 5 万円を上限に、文学部・法学部・経済学部・商学部の計 9 名が参加し、260 冊の図書を選書しました。
1 階の選書ツアーコーナーへ排架しています。どうぞご利用ください！

※参加した学生の感想

卒論のために読んでおきたい本など、学生にとって、なかなか手が出せない高価な本を図書館に置いていただけて、とてもありがたい企画だと思います。サークル活動関係の分野の本も選ぶことができ、最高の喜びです。

自分が読んでみたい本や、皆に読んでほしい本を、たくさん選ぶことができて楽しかったです。
普段、自分では選ぶことがないような本にも注目することができ、良い経験でした。

1 年生の頃から参加したいと思っていたので、参加できて嬉しかったです。
自分でも本を買う機会は多いほうですが、こんなに沢山選べるのは良かったです。また好きなジャンルを見つけて参加したいです。

勉強したいジャンルの本が図書館に無く、個人で揃えるのは困難だったので、今回、これだけの冊数を図書館に置いていただけるのは、とてもありがたいです。

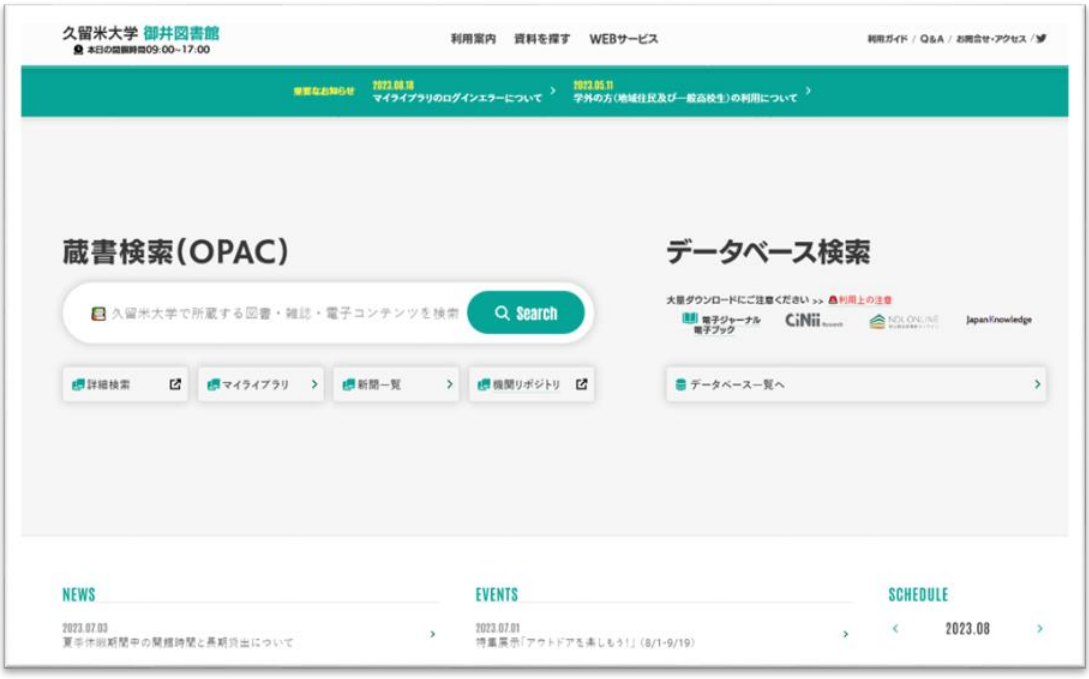
## 寄贈図書（学内関係者）

受入期間：2023 年 4 月 1 日～2023 年 7 月 31 日

| 寄贈者名 | 書名 | 著者名 | 出版者 |
|---|---|---|---|
| 原岡　薫 | 法とジャーナリズム | 山田健太著 | 学陽書房 |
| | 多くの声、一つの世界：コミュニケーションと社会、その現状と将来 ユネスコ「マクブライド委員会」報告 | ユネスコ著/永井道雄監訳 | 日本放送出版協会 |
| | メディアは存在しない | 斎藤環著 | NTT出版 |
| | すぐ読める!すぐ使える!インターネットイングリッシュ | 伊藤穣一監修 | ベネッセコーポレーション |
| | オリンピック物語：古代ギリシャから現代まで | 結城和香子著 | 中央公論新社 |
| | アメリカの子供はどう英語を覚えるか | シグリッド・H・塩谷著 | はまの出版 |
| 図子　善信 | 税法概論 20訂版 | 図子善信著 | 大蔵財務協会 |
| 鍋谷　照 | できることからはじめよう：追悼今村由子 | 杉本光古, 田町菜穂子編 | [出版者不明] |

※寄贈者名：敬称略。本学教員著書は、図書館 1 階 寄贈図書コーナーに排架。

## 図書館のホームページをリニューアルしました




2023 年 4 月に大学の HP と共に図書館の HP もリニューアルしました。

新しい HP では、TOP ページで蔵書検索ができる他、よく利用されるデータベースをわかりやすく配置しています。

下記のアドレスからもアクセスできますので、是非、ご活用ください。

https://miilib.kurume-u.ac.jp/